

# 佐藤 力



- 区政レポート 2021 新年号  
CONTENTS
- 新年を迎えて
  - 新型コロナウイルス相談
  - 気になる数字をチェック!
  - 一般質問 概要
  - YouTube「佐藤力チャンネル」

## 区政レポート 2021 新年号

## 練馬の力

### 令和3年 新年を迎えて

昨年は、大変多くの方々にお世話になり、そして、お支えいただき、誠にありがとうございました。

令和2年は新型コロナウイルスで始まり、新型コロナウイルスで終わった一年でした。3月には、WHOが新型コロナウイルスのパンデミックを宣言し、東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定。4月には、政府が緊急事態宣言を発令し、外出自粛や休業要請が行われました。その後、さまざまな対策が講じられていますが、いまだ収束の兆しは見えてきません。

国は、**来年前半までに国民全員分の新型コロナウイルスワクチンを確保**する方針を示しています。現時点で接種の開始時期は不明ですが、スムーズに接種できるよう、**練馬区では、昨年11月に専管組織を設置し、接種管理システムの構築、医療従事者や接種場所の確保などの準備を進めています。**

裏面では、昨年12月に行いました『一般質問』の概要についてお伝えいたします。

コロナ禍にあっても区民の皆さまが安心して日々を過ごせるよう、全集中で取り組んでまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



### 相談 新型コロナウイルス

発熱などの症状がある方は、**事前に電話で症状などを伝え、医療機関を受診**してください。かかりつけ医がない場合や相談先に迷っている方は、練馬区コールセンター等で相談を受け付けています。

※濃厚接触者でない、自覚症状のない方は、**自費でPCR検査**を受けられます。



PCR検査(自費診療)実施医療機関▲

#### 新型コロナウイルスの相談・受診・検査の流れ

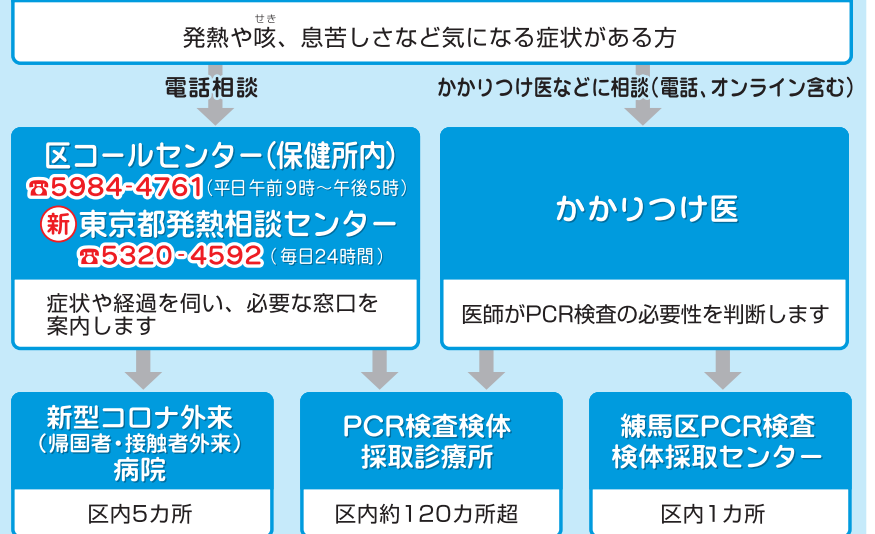
電話で正確に伝えるための3つの確認事項

- いつから、どんな症状があったか
- 発熱のある人が身近にいたか
- 「密閉」「密集」「密接」の状態で過ごす時間があったか

※電話をする前に振り返り、まとめておきましょう。



#### 区民の皆さま



### 気になる数字をチェック! 『274』

このコーナーでは、気になる数字をチェックしていきます。「274」と聞いて何か思い当たる人はいますでしょうか。

練馬区の「人口10万人あたりの一般病床・療養病床数」は、23区中最下位で、23区平均の約3分の1に留まっています。その現在の数が274床です。病床数の少なさ、練馬区の喫緊の課題の一つであり、これまで幾度となく病床数の増加を要望してきました。現在、以下のとおり、病院整備に向けて東京都に病床申請が行われています。病床配分は令和2年度末の予定ですが、申請状況等を踏まえると、新たに3カ所の病院整備が見込まれます。この整備等により、人口10万人あたりの一般病床・療養病床数は384床となりますが、23区最下位という状況に変わりはありません。引き続き、病床数増加に尽力してまいります。



名称	地域	病床	開院予定
練馬光が丘病院跡施設	光が丘	最大200床	令和5年度以降
(仮称) 忠医会病院	高松	123床	令和4年度
(仮称) 練馬志匠会病院	土支田	67床	令和5年度



# 一般質問の概要

「一般質問とは」・・・本会議において議員が練馬区で行う行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信をただすことをいいます。一人の議員が行う質問時間は概ね25分、答弁、再質問を含め45分となっています。

※各テーマにあるQRコードを読み取っていただくと、一般質問の映像がご覧いただけます。

## 持続可能な行政運営について



### <現状・課題>

- 1 練馬区業務継続計画**（新型インフルエンザ等編）※  
本計画は、新型コロナウイルスへの対応に活用できないなど、課題が見えました。**今後の感染拡大に備えて、修正する必要があります。**  
※新型インフルエンザや新しい感染症が発生した際の練馬区の対応をまとめた計画
- 2 クラウドファンディング・ふるさと納税**  
今後、練馬区の財政が非常に厳しくなることが予想される中で、持続可能な行政運営を行っていくためには、歳出削減と合わせて、**クラウドファンディングやふるさと納税を活用するなど、積極的に歳入確保に取り組まなければなりません。**
- 3 ねりま観光センター**  
少子高齢化が進展する中で、選ばれる自治体になるためには、**これまで以上に練馬区の魅力を発掘・創造し、イメージアップを図っていくことが必要不可欠**です。ねりま観光センターは、行政にはない企画力などが期待されていますが、観光という看板を背負っていることで、力が発揮されにくい現状があります。

## <力の質問・提言>



- 練馬区業務継続計画を早急に改定するとともに、委託事業者の対応についても明記を。
- 美術館等の改修費や、練馬こぶしハーフマラソン等のイベント運営費、学校の教育環境整備費などに対して、クラウドファンディングやふるさと納税の活用を。
- ねりま観光センターの機能を「産業・観光情報発信の拠点」から「練馬区の魅力を創造・発信する拠点」へ拡大を。

## <区からの回答>

- これまでの取り組みを検証し、委託業務の取扱いも含めて、年内完了を目途に修正していく。
- クラウドファンディングは、多くの方に区の施策に関心を持っていただくとともに、広く資金調達する有効な手段の一つである。今後とも寄付制度の拡充に努めていく。
- 観光という枠にとらわれず、様々な観点から、練馬の魅力を創造と発信に向けた取り組みを行っていく。

## 教育について



### <現状・課題>

- 1 区立中学校選択制度**  
本制度の目的は、「生徒と保護者の学校選択の意思を尊重することにより、個性や能力を伸ばすとともに、魅力ある学校づくりを推進し、区立中学校の活性化を図ること」です。しかしながら、この目的が達成されているとは言い難い状況です。その原因の一つとして、**学校の広報力および魅力づくりが不足している点**があると考えています。
- 2 学校の広報力**  
新型コロナウイルスの影響により学校説明会等が満足に開催できない中、ほぼすべての私立中学校がオンラインによる学校説明会を開催している一方で、**区立中学校で開催したのは33校中3校**でした。また、魅力づくりに力を入れている学校はありますが、学校HPなどを見ても、その魅力が伝わらず、もったいない現状があります。**生徒や保護者にしっかり学校の魅力を伝えるために、教職員の広報意識およびスキルの向上が必要**です。
- 3 魅力ある学校づくり**  
今後ますます少子化が加速していく状況を考えれば、**区立中学校の競合は、近隣の学校ではなく、すでに2割の生徒が進学する国立・都立・私立中学校**です。これからは、**区立中学校も私立中学校等に劣らない魅力を持ち、「地元为学校に行きたい」と言われるような学校にならなければなりません。**固定担任制や定期テストの撤廃、国際バカロレアなどの教育プログラムの導入、民間人校長の採用など、**前例のない新しい取り組みにも積極的にチャレンジしていくことが必要**です。
- 4 軽度発達障害等の子供たちへの個別指導**  
軽度発達障害や境界知能、軽度知的障害を持つ子供は、小中学校の通常学級1クラスに2～5名程度いると言われていています。この子供たちの多くは、特別な支援が必要なのに、気づかれず、支援が行われていない現状があります。特別な支援がないまま学校に通い続けると、**小学2年生くらいから勉強についていくことができず、勉強嫌いになり、不登校となったり、非行に走ってしまったりする**恐れもあります。学校には学力向上支援講師等が配置されていますが、職務内容や勤務時間・日数などに制限があるため、**軽度発達障害などを持つ子供たちを個別指導するには限界**があります。

## <力の質問・提言>



- 現在の学校選択制度への課題認識は。
- 教職員の広報意識およびスキルの向上を。
- 学校の魅力づくりに向け、新しいことに積極的にチャレンジを。
- 学力向上支援講師などの活用に対して、学校の裁量拡大や、増員、人材確保への支援を。
- 欠席届など「家庭と学校との連絡のデジタル化」を令和3年度当初から実施を。

## <区からの回答>

- 学校選択制度は、アンケート調査で「学校選択制度を継続すべきではない」と回答した区立中学校の保護者の割合は2.9%であり、制度として十分に定着し、一定の評価を得ている。
- 各学校では学校HPや学校だより、学校公開などを通じて情報発信をしている。学校間で取り組み状況に差が生じないように、校長研修等の機会を通じて充実を促している。
- 区立中学校では、地域特性や伝統を踏まえた教育活動に取り組み、学校ごとの魅力を継承・創造している。例えば、全国大会や各種コンクールに出場する部活動や、敬老会・保育園に生徒が訪問・交流するなど。
- 学力向上支援講師を各小学校に配置し、支援を必要とする児童へのきめ細かな指導につなげている。また、放課後に地域人材によって運営する学習教室「地域未来塾」で、児童生徒に対して個別学習指導を行い、学力と学習習慣の定着を図っている。
- 学校と家庭が迅速かつ効率的に情報共有できるツールとしてタブレットが活用できるよう検討を進めていく。



PROFILE

昭和60年(1985年)練馬区生まれ 練馬区育ち。35歳。  
 練馬区立開進第一小、早稲田実業学校 中等部・高等部、早稲田大学政治経済学部 卒業。練馬区役所に9年間勤務。  
 働きながら、ビジネス・ブレイクスルー大学大学院 修了(MBA)。  
 公募にて自民党公認を得て、平成31年練馬区議会議員選挙にて7,720票(第3位 新人トップ)にて当選する。  
 ●所属委員会：文教児童青少年委員会、都市農業・みどり環境等特別委員会 ●家族：妻・長男(7才)・長女(3才)・次女(1才)  
 ●区役所での実績：「練馬こぶしハーフマラソン」立上げ、「よりどりみどり練馬」テレビCM制作、職員表彰 受賞(9年間で4回)  
 ●地域活動など：ねりパパ(練馬イクメンパパプロジェクト)副代表、「池袋掃除の会」立上げ、練馬区珠算教育連盟 顧問



## 佐藤力事務所

〒179-0076 練馬区土支田1-20-4-101  
 TEL & FAX: 03-4500-1756  
 公式HP: <https://satoriki.net/>



## 配信中! YouTube 「佐藤カチャンネル」

YouTubeで、練馬区政に限らず、皆さんにタメになる情報を幅広く発信しています。原則、毎週土曜日20時に配信中!

